

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

柏市教育長賞

デジタル通貨と税

柏市立高柳中学校 第3学年 町田 実優

近年、日本ではキャッシュレス化が進んでいる。現金を使わずに、スマートフォンやカードで支払いをする人が増えてきた。では、もし将来現金がなくなり全てデジタル通貨になったら税金の集め方や使い方に変化は出てくるのだろうか。デジタル通貨では、支払いの記録が自動で残るため税金の徴収や計算がこれまでよりも正確にできるようになると考えられる。たとえば、今までは一部の人が税金を誤って申告したり、申告漏れがあったりしたが、すべての取引が記録されることでそのような問題は少なくなるだろう。また、税務署の仕事も効率化され、これまで時間や人手がかかっていた作業がコンピュータで自動処理されることによってスムーズになる可能性もある。さらに、税金の使い方にも変化が出るかもしれない。デジタル通貨でお金の流れがわかりやすくなると、国や自治体は効率的な予算配分ができるようになり無駄を減らすことも可能になるだろう。たとえば、学校や道路などの公共施設を直したりするためのお金を使うのが今よりもっと計画的にできるようになるかもしれない。

しかし、便利になる一方で、注意しなければいけない

点もある。全ての取引が記録されるため、私たちの生活やお金の使い方が国や自治体から監視されているように感じる人もいるだろう。また、スマートフォンやカード、ネットのシステムに不具合が起きたりすると一時的に支払いができなくなったりお金の管理が大変になったりすることも考えられる。このように、キャッシュレス納税には便利さだけでなくトラブルやプライバシーの面で気を付ける必要があるのだ。それでも、将来デジタル通貨やキャッシュレス社会が広がることを考えると、私たち一人ひとりが税金やお金のしくみについてよく理解しておくことが大切だと思う。実際に、スウェーデンは「現金が消えた国」と称されるくらい現金流通量が低くなっている。しかし、所得税、付加価値税が高いスウェーデンではキャッシュレス取引による公平な税金の徴収が国民には好意的に受け取られているようだ。将来的には日本でも同じように現金を使わない生活が当たり前になっていくのではないだろうか。そのときは便利さの裏にある問題点にも真摯に向き合わなければならない。税金の使い道についても公平で計画的な配分が求められるようになるだろう。教育や福祉、インフラなどに役立てるしくみを作ることが重要になる。時代が移り変わることによって付随した社会問題に向き合う姿勢が欠かせないのだ。

